



アドベントを迎えた 11 月 30 日に、2 年ぶりに夫の同級生夫妻と箱根の旅を楽しみました。野山を歩くのが大好きな彼は自称「仙人」。彼は菜園で作った野菜をたくさんお土産に持ってきてくれました。私は彼のお連れ合いを 1529m の天女山と一緒に登った時以来、「北杜の天女様」と呼んでいます。なんと、仙人は子連れでした。子どもはエルフィーという名前の推定年齢 8 歳位の雑種の茶色い中形犬でした。この犬はこれ以上飼えなくなった老人が保健所をお願いした犬で、いわば「刹処分」の身の上だったそうです。

仙女様は可哀そうに思い、引き取って、エルフィーと名付け、育てています。以前飼っていた犬が死んだ時に、友人が慰めのために絵本『ずーっとずっと大好きだよ』を贈ってくれたので、その主人公の名前をつけたとのこと。その子のために生活のリズムは変わり、外出の制限もあるでしょう。実の子以上に手塩にかけて育てていると仙人は大笑いです。とても優しいご夫妻です。おとなしくて、車の中で寝かせておけるから、連れてきたのです。

晴天に恵まれ、秋空にくっきりと冠雪した富士がよく見えました。私たちは連れだって恩賜公園、山中城跡公園を歩き回りました。山中城跡は小田原の後北条家が豊臣秀吉の来攻に備えた山城で、曲輪(砦の区域)を守る障子堀(右の写真)などの遺構が 500 年の時を経ても見ることが出来る、よく保存された城跡でした。花はありませんでしたが、戦国時代の攻防、興亡に思いを馳せることが出来ました。



散策を終えて、宿は子どもの教会でよく出かけた富士箱根ランドです。そこの大浴場は最高です。温泉につかりながら、富士山、函南の原生林、沈む夕日、キラキラと光る三島の夜景を眺めることが出来るのです。夕食のバイキングを楽しみながらも、隠退牧師の教会生活はデリケートな部分があること、教会にどのように関わればいいのか、自分がすべき奉仕はどんなことか、また出来ることは何かなど、教会の話に夢中な私たちでした。

仙人が教会のクリスマス・コンサートでバスを担当し、練習したいのに時間がなくて焦っているとお話を聞きました。さっそく、自慢のノドをご披露してもらいたくなりました。そこでカラオケを楽しむことにしました。ソフトで、ビブラートが利いたとても良いお声でした。カラオケが採点してくれて、最高点ができました。天女様は少しはにかみながら歌います。お二人がデュエットに選んだ曲はなんと、「月の砂漠」でした。なんて、メルヘンチック！スクリーンに映る映像はラクダに乗った王子様とお姫様ですけれども、エジプトへ逃避行するヨセフとマリアの姿に思えなくもありません。楽しそうに童謡を歌う仙人と天女様。そのようにあだ名をつけたのは正解！と思いました。



その晩も、次の朝も、仙人と天女様はエルフィーの様子を見に起きて行ったことでしょう。朝食に集まった時、仙人はマツムシソウを 1 本ずつ天女様と私にプレゼントしてくれました。寒さに縮みながらこの時期まで咲いていたとは驚きでした。彼は朝の散歩で見つけたというのです。そういえば、北杜でも、四葉のクローバーを頂いたことを思い出しました。よく見つけれられるものです。さすが仙人です。出発する時、天女様は毛糸の帽子にマツムシソウを挿してにっこり。また、会いましょうねと約束をしてお別れしました。

野菜を息子家族にも分けました。ハウレン草を茹でて朝に食べました。夕食は天ぷらを揚げて、赤大根をすり下ろすことにしました。赤大根はとても綺麗なピンク色になりました。ほんのり辛くて、天ぷらにピッタリでした。ご馳走様でした。